看護学生としてのアイデンティティと私的スピリチュアリティの関連および看護学生アイデンティティ確立に向けた方策の検討

浜多　美奈子[1)]，比嘉　勇人[2)]，田中　いずみ[2)]，山田　恵子[2)]

1）医療法人ホスピィー　浦田クリニック
2）富山大学大学院医学薬学研究部

要　旨

【目的】看護学生のアイデンティティとスピリチュアリティの因果モデルを作成し，看護学生としてのアイデンティティ確立に向けた方策を検討する．
【方法】看護学生 79 名に，看護学生アイデンティティ尺度（SEINS）とスピリチュアリティ評定尺度（SRS-A，SRS-B）を用いて共分散構造モデルを求めた．また，SEINS 判定基準に従って SRS-B の回答内容を分析した．
【結果】共分散構造分析の結果，SRS-B から SRS-A へのパス係数は 0.71，SRS-A から SEINS へのパス係数は 0.89 であった．特定されたモデルの適合度は概ね良好であった．また，SRS-B への回答内容（ポジティブ回答内容 P と非ポジティブ回答内容 N の出現比率）を分析した結果，アイデンティティ拡散傾向群は P:N = 0.15，モラトリアム群は P:N = 0.79，アイデンティティ確立傾向群は P：N = 1.82 であった．
【結論】看護学生としてのアイデンティティに私的スピリチュアリティが影響を与えることを示す看護学生アイデンティティ因果モデルが作成され，私的スピリチュアルな側面から看護学生アイデンティティ確立に向けた方策への示唆を得た．

キーワード
看護学生，アイデンティティ，スピリチュアリティ

はじめに

アイデンティティ（Ego-Identity，自我同一性）とはエリクソン（Erikson, E. H）が青年期の心理社会的な発達課題として提唱した概念であり，青年期における職業の選択および決定はアイデンティティ形成の中心的要素とされる[1)]．職業とは「実体的な契約に明示されているような自分の存在の意味」[2)] であり，社会での自分の存在を示す「職業」への意識が，青年期のアイデンティティ形成に影響を与えることは，アイデンティティと職業への意識の関連に関する先行研究からも実証されている[3-5)]．

そして職業に対する意識がアイデンティティに影響を及ぼすとすれば，看護師を目指す看護学生では，職業すなわち看護への意識が彼らのアイデンティティ，その中でも，看護学生である自分に対する意識である「看護学生としてのアイデンティティ」に影響を与えると推測される．

アイデンティティの感覚とは「内的な不変性と連続性を維持する各個人の能力（心理学的意味での個人の自我）が他者に対する自己の意味の不変

性と連続性とに合致する経験から生まれた自信」[6] である．すなわち，自分は自分以外の誰でもない自分である感覚（不変性）と，過去の自分の延長上に現在の自分が築かれており，この先も自分であり続けるであろう感覚（連続性）を持ち，その自分が，他者が捉える社会的な自分と一致していると感じる経験を重ねることで生じる自信であるといえる．

そのような自己への意識は，比嘉の提唱する「私的スピリチュアリティ」との関連性が推測される．私的スピリチュアリティとは「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的なつながり性」[7] である．すなわち，自分自身を内観した時に抱く自分への思い，また周囲との関係性に対する意識である．

スピリチュアリティに関しては，1998 年に WHO の「健康の定義」改正案[8] にスピリチュアルな側面が追加されたことからも，現在では全人的健康の重要な構成要素として認識されているが，看護学生のアイデンティティとスピリチュアリティの関連における先行研究は見られない．また，看護学生の職業的アイデンティティに関する研究は行われているが，その具体的な教育的支援に関する研究成果は少なく[9]，看護学生のアイデンティティ確立に向けた支援を検討する研究はほぼない．

以上のことから，本研究では，私的スピリチュアリティと看護学生としてのアイデンティティの関連について検討し，スピリチュアリティという側面から看護学生としてのアイデンティティ確立に向けた方策を検討することを目的とした．

（用語の定義）

看護学生としてのアイデンティティ

「看護師を目指す一貫した自己意識」[10] とする．

私的スピリチュアリティ

「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的なつながり性」[7] とする．

研究対象と方法

１．仮説構成と仮説モデル

私的スピリチュアリティとは，自分自身の内面および外部に向けられる自己内発的な意識である．それは，看護学生としての自分に対する思いや看護師として社会貢献を望む気持ちを反映する看護学生としてのアイデンティティに影響を与えると考えた．そこで本研究では，私的スピリチュアリティが看護学生としてのアイデンティティに影響を与えるという仮説を創案し，私的スピリチュアリティと看護学生アイデンティティの関係を因果モデルとして構築し検証する（図 1）．

２．調査対象

4 年制大学看護学科に在籍する看護学生 79 名

３．調査期間

2013 年 2 月～ 10 月

４．調査内容

１）属性

年齢，性別

２）看護学生アイデンティティ尺度（Scale of Ego－Identity for Nursing Student：SEINS）

浜多が開発した看護学生としてのアイデンティティを測定する尺度を用いる[10]．【達成志向：看護の方向性を見定め，達成しようとする自己意

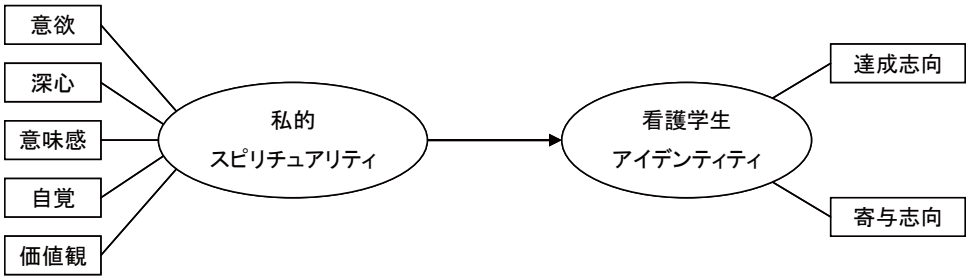

図１．看護学生アイデンティティ因果モデル（仮説）

識】と【寄与志向：看護に積極的に寄与しようとする自己意識】の2下位尺度からなり，8項目（うち4項目は逆転項目）で構成される．得点範囲は8-48点で，得点が高いほどアイデンティティが高い（アイデンティティが確立している）ことを示し，得点により3つのカテゴリー（23点以下：アイデンティティ拡散傾向，24-32点：モラトリアム，33点以上：アイデンティティ確立傾向）に判定される．評価段階は，「全然そうではない，そうではない，どちらかといえばそうではない，どちらかといえばそうだ，かなりそうだ，まったくそのとおりだ」の6段階評定で，順に1点，2点，3点，4点，5点，6点で得点化する．逆転項目は「まったくそのとおりだ」に1点，以下順に「全然そうではない」に6点で配点される．

３）スピリチュアリティ評定尺度（Spirituality Rating Scale-AB：SRS-A，SRS-B）

私的スピリチュアリティの測定には，スピリチュアリティ評定尺度（SRS-A）および文章完成法によるスピリチュアリティ評定尺度（SRS-B）を用いる[11)12)]．私的スピリチュアリティとは，「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的なつながり性」であり，SRS-Aは比嘉によって開発されたスピリチュアリティの高低を評価できる尺度である．SRS-Aは，意気因子（【意欲：望みを成し遂げようとするこころ】【深心：深く求めたことを信じるこころ】）および観念因子（【意味感：意味づけを実感するこころ】【自覚：自分自身を感じるこころ】【価値観：自己基準を思い抱くこころ】）の下位概念で構成されている．本研究では一次因子である【意欲】【深心】【意味感】【自覚】【価値観】を用いて分析を行う．各下位尺度は3項目からなり，計15項目で構成される．回答形式は「全く思わない，すこしは思う，中程度思う，とても思う，非常に思う」の5件法で，「全く思わない」を1点～「非常に思う」を5点と配点し，SRS-A得点は15-75点の範囲をとる．合計得点（SRS-A得点）が高いほど私的スピリチュアリティが高いことを表す．

またスピリチュアリティ評定尺度（SRS-B）は，SRS-Aを質的側面から補完する尺度であり，SRS-Aの5つの下位概念に対応した5項目からなる文章完成法の評定尺度である．【望み：何よりも一番したいことは】，【支え：一番の支えになるものは】，【対他評価：周囲に対して強く感じていることは】，【対自評価：自分のこれからは】，【病観：病い（病気または疾病）というものは】で構成される．SRS-Aが決められた15の質問項目に対し5件法で回答する尺度であることに対し，SRS-Bは5つの下位概念をテーマに，記述回答により自由度の高い回答を得ることが可能である．またその内容を点数化することが可能であり，評定基準についてはSRS-B5項目の各回答内容を0，1，2点（0点：非肯定的-2点：肯定的）で評価し，その合算値が評点となる．SRS-B評点の範囲は0-10点で，合計点数（SRS-B評点）が高いほど肯定的評価であることを示す（なお統計処理上，SRS-A得点およびSRS-B評点は間隔尺度として扱う）．

５．分析方法

統計ソフトSPSS 22.0 J for WindowsおよびAmos 22.0を使用し，以下の分析を行った．

１）尺度の信頼性係数の算出

SRS-AおよびSRS-B，およびSEINSにおけるCronbachのα係数を算出し，尺度の信頼性を確認した．

２）尺度間の相関分析

看護学生アイデンティティと私的スピリチュアリティの関連を検討するために，SEINS得点およびその2下位尺度【達成志向】【寄与志向】と，SRS-A得点およびその5下位尺度【意欲】【深心】【意味感】【自覚】【価値観】，そしてSRS-B評点におけるPearsonの積率相関係数を求めた．

３）共分散構造分析によるモデルの検討および評価

共分散構造分析とは，多変量データを分析する手法である．研究者が立てた仮説に基づく因果モデルの作成が可能で，双方向の因果関係，間接・総合効果を分析することができる．本研究では，私的スピリチュアリティが看護学生アイデンティティに及ぼす影響について検討するために，仮説に基づいた看護学生アイデンティティ因果モデルを設定し，データへの適合度を共分散構造分析で算出した．初期モデルの適合度が採択基準に満たない場合には，修正指標を参考にモデルを改

良し，適合度のよいモデルを採用した．モデルの適合度はカイ二乗値（CMIN）（適合度検定），AGFI（Adjusted Goodness of Fit Index），CFI（Comparative Fit Index），RMSEA（Root Mean Square Error of Approximation）を採用し，採択基準は, CMIN における確率が p>0.05, AGFI = 0.9 以上, CFI = 0.9 以上, RMSEA = 0.05 以下とした．パス係数は有意水準を 5%とした．

４）SEINS 判定の 3 カテゴリーにおける SEINS, SRS-A，SRS-B の基本統計量

SEINS 判定の 3 つのカテゴリー（「アイデンティティ拡散傾向」「モラトリアム」「アイデンティティ確立傾向」に該当する対象者の SEINS，SRS-A, SRS-B の平均値±標準偏差，中央値を算出した．

５）SRS-B 回答内容の P：N 比率

SRS-B の各質問項目への回答内容に対する回答者の自己評価（0 点：非肯定的-2 点：肯定的）を用いて，2 点である場合は P（ポジティブ回答／肯定的自己評価），0 点および 1 点の場合は N（非ポジティブ回答／非肯定的自己評価）とし，SRS-B における SEINS 判定の 3 カテゴリー別でのポジティブ回答（P）と非ポジティブ回答（N）の出現比率（P：N 比）を算出した．P：N 比は算出された値が 1 以下であれば非ポジティブ傾向，1 を超える値であればポジティブ傾向と判断する．

６）SEINS 判定の 3 カテゴリーにおける SRS-B 回答内容

SEINS 判定基準（23 点以下：アイデンティティ拡散傾向，24-32 点：モラトリアム，33 点以上：アイデンティティ確立傾向）に従って SRS-B の回答内容を分析した．

６．倫理的配慮

倫理的配慮として，研究者は研究参加者の次の権利を擁護しながら研究を遂行した．①自己決定の権利，②得られたデータは本人が特定されないように厳重に管理し，プライバシーおよび秘密が保護される権利，③全面的な情報開示を受ける権利：本研究の成果資料を提示する，④危害を加えられない権利：学生の成績（評価）には一切反映されない，また⑤研究で得られたデータは本研究以外に使用しないこと，以上を口頭あるいは文書で説明し，参加の同意を得られた者のみに調査を行った．なお本研究は，富山大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（臨認 24－134 号）．

結 果

回収数は 79 部（回収率 100%）であり，有効回答である 79 部（有効回答率 100%）を分析対象とした．

１．基本統計量

有効回答者 79 名における平均年齢は 21.3 ± 0.59（SD），性別は男性 8 名（10.1%），女性 71 名（89.9%）であった（表 1）．SEINS，SRS-A および SRS-B の平均値±標準偏差および中央値は，SEINS 30.63 ± 4.83（中央値 31），SRS-A 41.68 ± 8.93（中央値 43），SRS-B 6.25 ± 2.18（中央値 6）であった（表 2）．

２．使用尺度における信頼性

１）SEINS

SEINS の 2 下位尺度における Cronbach の α 係数は,【達成志向】0.62,【寄与志向】0.72 であった．尺度全体では 0.76 であった（表 3）．

２）SRS-A, SRS-B

SRS-A の 5 下位尺度における Cronbach の α 係数は,【意欲】0.75,【深心】0.81,【意味感】0.81,【自覚】0.78,【価値観】で 0.81 であり，SRS-A

表１．対象者の属性

（N=79）

		人数	%
性別	男性	8	10.1
	女性	71	89.9
年齢（歳）	20	1	1.3
	21	56	70.9
	22	18	22.8
	23	4	5.1

表２．基本統計量

（N=79）

	SEINS	SRS-A	SRS-B
平均値	30.63	41.68	6.25
標準偏差	4.83	8.93	2.18
中央値	31	43	6

表３．各尺度の Cronbach の α 係数（N=79）

	下位尺度		尺度全体
SEINS	達成志向	0.62	0.76
	寄与志向	0.72	
SRS-A	意欲	0.75	0.88
	深心	0.81	
	意味感	0.81	
	自覚	0.78	
	価値観	0.81	
SRS-B			0.52

尺度全体では 0.88 であった．SRS-B 尺度全体の Cronbach の α 係数は 0.52 であった（表 3）．

３．看護学生アイデンティティ因果モデルの作成と検証

１）尺度間の相関分析

SEINS と SRS-A および SRS-B において Pearson の積率相関係数を求めた．SEINS 得点と SRS-A 下位尺度では,【意欲】0.61,【深心】0.30,【意味感】0.58,【自覚】0.36,【価値観】0.38, SRS-A 得点では 0.60（すべて p<0.01）の有意な正の相関が認められた．SEINS 得点と SRS-B 評点では 0.57（p<0.01）の有意な正の相関が認められた．

２）共分散構造分析によるモデルの作成

「私的スピリチュアリティ（SRS-A)」（以下, SRS-A）という潜在変数を構成する【意欲】【深心】【意味感】【自覚】【価値観】の 5 つの観測変数を設定し,「SRS-A」が, 2 つの観測変数【達成志向】【寄与志向】から構成される「看護学生アイデンティティ（SEINS)」（以下, SEINS）という潜在変数に影響を与えるとするモデルを構成した．また SRS-A を補完する尺度である SRS-B 評点を観測変数「私的スピリチュアリティ（SRS-B)」（以下, SRS-B）として配置し,「SRS-A」との相関および「SEINS」への影響を検討するモデルを初期モデルとして設定し，その適合度を共分散構造分析で算出した．初期モデルでは，適合度が採択基準に満たなかったため，修正指標に基づいて「SRS-A」の誤差変数間に相関を入れ，モデルの修正を行った．結果，モデル適合度は改善されたが,「SRS-B」から「SEINS」へのパス係数が有意とならず（p = 0.16），初期モデルは棄却された．そのため改良モデル（図 2）にて再度共分散構造分析を実施した. 改良モデルの適合度は, カイ二乗値（CMIN）24.94（p = 0.13），AGFI = 0.85，CFI = 0.97，RMSEA = 0.07 であった．パ

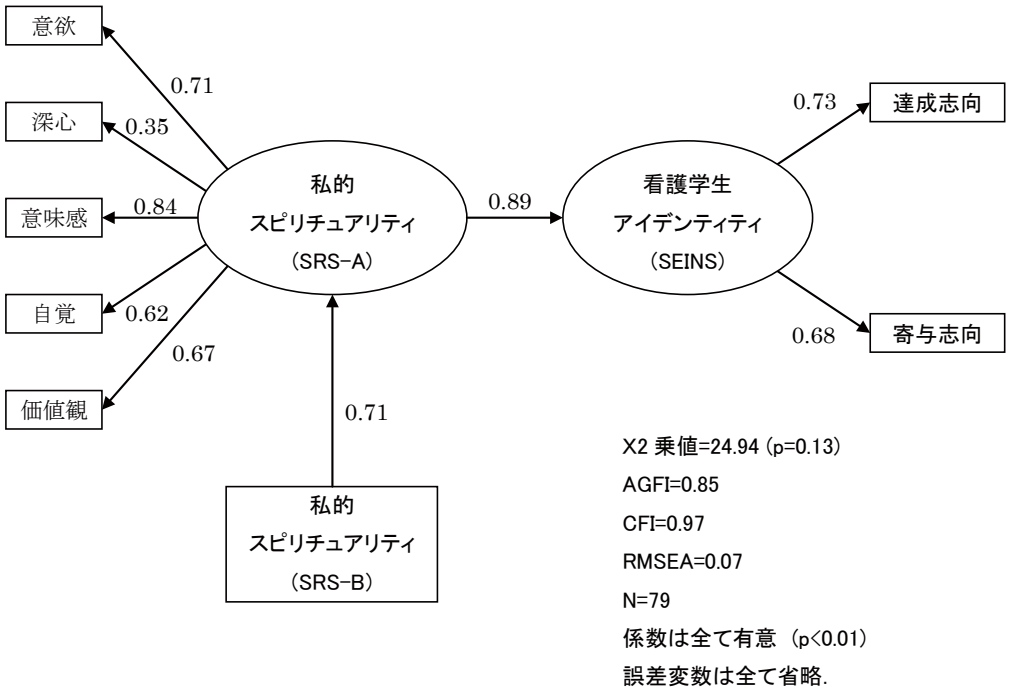

図２．看護学生アイデンティティ因果モデル

ス係数は全て有意であった（p<0.01）．AGFI また RMSEA が採択基準値に満たなかったが，AGFI に関しては分析対象数が少ないこと（N = 79）が原因と考えられた．RMSEA については 0.1 以上でモデルの当てはまりが悪いと判断するとする場合もあり[13]，今回は 0.1 以下であるため，この水準においても許容範囲と考え，総合的にモデルは概ね良好であると判断した．この改良モデルを「看護学生アイデンティティ因果モデル」と命名した．

３）私的スピリチュアリティ（SRS-B）から（SRS-A）への影響

パス係数とは一方の変数が他方の変数に与える影響の強さを示し，標準化係数は絶対値で 0 から 1 の範囲を取り，1 に近いほど従属変数との関係が強いと判断される．「SRS-B」から「SRS-A」へのパス係数（標準化係数）は 0.71 であり，「SRS-B」から「SRS-A」への強い影響が認められたことを示す．

４）私的スピリチュアリティ（SRS-A）から看護学生アイデンティティ（SEINS）への影響

「SRS-A」から「SEINS」へのパス係数（標準化係数）は 0.89 であり，「SRS-A」から「SEINS」への強い影響が認められた．次に潜在変数(「SRS-A」,「SEINS」）とその構成要素となる観測変数（各尺度の下位項目）のパス係数を示す．「SRS-A」から【意欲】は 0.71,【深心】は 0.35,【意味感】は 0.84,【自覚】は 0.62,【価値観】は 0.67 で，5 つの観測変数の中では【意味感】が「SRS-A」と最も強い関係を示し，次いで【意欲】,【価値観】,【自覚】,【深心】の順であった．また「SEINS」から，【達成志向】は 0.73,【寄与志向】は 0.68 であった．

５）私的スピリチュアリティ（SRS-B）から看護学生アイデンティティ（SEINS）への影響

今回作成された看護学生アイデンティティ因果モデルでは，「SRS-B」から「SEINS」への直接効果は認められなかったが，「SRS-A」を介して「SEINS」に 0.63 の間接効果（標準化係数）が認められた．

４．SEINS 判定の 3 カテゴリーにおける SEINS，SRS-A，SRS-B の基本統計量

対象者 79 名における SEINS 判定の 3 カテゴリーの該当人数（%）は，アイデンティティ拡散傾向:6 名（7.6%），モラトリアム:42 名（53.2%），アイデンティティ確立傾向:31 名（39.2%）であった．各群における SEINS，SRS-A，SRS-B の平均値±標準偏差と中央値は，アイデンティティ拡散傾向群（以下，拡散群）は SEINS:20.67 ± 4.08（中央値 23），SRS-A：30.00 ± 8.44（中央値 27.5），SRS-B：3.83 ± 1.83（中央値 4），モラトリアム群は SEINS：28.83 ± 2.66（中央値 29.5），SRS-A:38.79 ± 6.78（中央値 39），SRS-B:5.76 ± 2.09（中央値 6），アイデンティティ確立傾向群（以下，確立群）は SEINS：35.00 ± 2.03（中央値 34），

表４．SEINS 判定別 SEINS，SRS-A，SRS-B の基本統計量

（N=79［100%］）

		アイデンティティ拡散傾向群（N=6［7.6%］）	モラトリアム群（N=42［53.2%］）	アイデンティティ確立傾向群（N=31［39.2%］）
SEINS	平均値	20.67	28.83	35
	標準偏差	4.08	2.66	2.03
	中央値	23	29.5	34
SRS-A	平均値	30	38.79	47.87
	標準偏差	8.44	6.78	7.35
	中央値	27.5	39	49
SRS-B	平均値	3.83	5.76	7.39
	標準偏差	1.83	2.09	1.73
	中央値	4	6	8

SRS-A：47.87 ± 7.35（中央値 49），SRS-B：7.39 ± 1.73（中央値 8）であった（表 4）.

5．SEINS 判定の 3 カテゴリーにおける SRS-B 回答内容の P：N 比

SRS-B 回答内容において，拡散群では，回答が「肯定的」と自己評価されたポジティブ回答（P）数 4 に対し，「非肯定的」と自己評価された非ポジティブ回答（N）数 26（P:N 比は 0.15）であった．モラトリアム群ではポジティブ回答数 93 に対し，非ポジティブ回答数が 117（P:N 比は 0.79）であった．確立群では，ポジティブ回答数 100 に対し，非ポジティブ回答数 55（P：N 比 1.82）であった（表 5）.

6．SEINS 判定の 3 カテゴリーにおける SRS-B 回答内容

SRS-A の 5 下位尺度に対応する SRS-B の 5 項目に対する主な回答内容は以下の通りであった.

【望み】（SRS-A【意欲】に対応する）では，拡散群：「睡眠」「自分が本当にやりたいことを見つけたい」など，モラトリアム群:「遊びたい」「旅行」「休みたい」など，確立群:「旅行」「遊びたい」「勉強」などであった（表 6）.

【支え】（SRS-A【深心】に対応する）では，拡散群:「家族」「お金」など，モラトリアム群:「友人」「家族」「趣味」など，確立群:「友達」「家族」「仲間」などであった（表 7）.

【対他評価】（SRS-A【意味感】に対応する）では，拡散群:「劣等感」「周りの人は自分より優秀」など，モラトリアム群：「自分がどう思われているのか」「特に何も感じていない」「みんな頑張っている」など，確立群:「感謝」，「一緒に実習がんばろう！」「過度な期待をしないで」などであった（表 8）.

【対自評価】（SRS-A【自覚】に対応する）では，拡散群：「まだよくわからない」「まったく先がみえない」など，モラトリアム群:「分からない」「どうなるか不安」など，確立群：「自分で努力して切り開く」「なんとかなる」「未知」などであった（表 9）.

【病観】（SRS-A【価値観】に対応する）では，拡散群：「自分はまだ病気にはならない」「仕方ない」など，モラトリアム群:「辛いこと」「怖い」「苦しい」「付き合っていくもの」など，確立群：「誰にでも起こること」「乗りこえるもの」「つらい」などであった（表 10）.

考 察

1．尺度の信頼性の検討

信頼性の検討のため各尺度において Cronbach の α 係数を算出した．結果，SEINS では α = 0.76，SRS-A では α = 0.88 の高い信頼性が得られ，測定指標として十分な内的整合性が確保されたと考える．したがって，本研究では対象者の看護学生としてのアイデンティティおよび私的スピリチュアリティが指標の測定値に適切に反映されており，よって変数間の関連性を検討することが可能

表5．SRS-B における SEINS 判定の 3 カテゴリー別の P：N 比

（N=79）

		アイデンティティ拡散傾向群		モラトリアム群		アイデンティティ確立傾向群	
		(N=6)		(N=42)		(N=31)	
		P	N	P	N	P	N
SRS-B	【望み】	2	4	26	16	23	8
	【支え】	2	4	34	8	31	0
	【対自評価】	0	6	14	28	19	12
	【対他評価】	0	6	12	30	19	12
	【病観】	0	6	7	35	8	23
	合計(人)	4	26	93	117	100	55
	P：N 比	0.15		0.79		1.82	

P はポジティブ内容回答，N は非ポジティブ内容回答を示す

表６．SRS－B【望み】の SEINS 判定別記述回答の内容

問：何よりも一番したいことは

アイデンティティ拡散傾向（P：N=2：4）	モラトリアム（P：N=26：14）	アイデンティティ確立傾向（P：N=23：8）
P　自分が本当にやりたいことを見つけたい	P　皆と楽しく生活すること	P　充実した実習
P　自分で生活していけるようになりたい	P　実習を休まない	P　温泉に入る
N　睡眠、休息	P　（無回答）	P　旅行
N　どこか遠くへ旅行へ行きたい。	P　睡眠	P　友達や家族とゆっくりあそびたい
N　帰りたい	P　実習を終え、就職し、安定した生活を送りたい	P　勉強
N　睡眠	P　ラーメンが食べたい	P　実習を意義あるものとし、国試を乗り越える
	P　旅行	P　看護の勉強
	P　友達と旅行に行くこと	P　おいしいものをたくさん食べたい。
	P　ゆとりある生活	P　甘い物が食べたい！！
	P　海外旅行に行きたい	P　睡眠
	P　連休になって遊びたい	P　遊びたい
	P　国試合格、内定決まる	P　勉強をしたい
	P　何にも迫られない生活がしたい	P　思いっきり寝たい
	P　（無回答）	P　買い物
	P　遊ぶ	P　遊びたい
	P　結婚	P　旅行
	P　旅行がしたい	P　時間を気にせずのんびり過ごしたい
	P　楽しいこと	P　彼氏に会いたい
	P　（無回答）	P　勉強がしたい。
	P　遊びたい	P　旅行
	P　（無回答）	P　旅行
	P　旅行、たくさん寝る	P　友人との食事
	P　休みたい	P　早く働けるようになりたい
	P　遊びたい	N　自分の健康をととのえる
	P　運動	N　遊ぶ
	P　友達と遊んで話したい	N　理解してくれる人のそばで話をきいてほしい。
	N　休息をとりたい	N　睡眠
	N　アイス食べたい	N　海外に行きたい
	N　休みたい	N　睡眠
	N　夜、睡眠をきちんととること。	N　実家に帰りたい
	N　旅に出たい	N　休みをとりたい
	N　友達と遊びたい、旅行へ行きたい	
	N　何も考えずに遊びたい	
	N　家に帰って甘い物を食べたい	
	N　家に帰る	
	N　寝たい	
	N　何も考えず、ゆっくり休みたい。	
	N　ねむりたい	
	N　休むこと	
	N　（無回答）	
	N　何もせず部屋でグダグダしたい	
	N　旅行	

注１：SRS－B【望み】は SRS－A 下位尺度【意欲】に対応している
注２：P はポジティブ回答内容，N は非ポジティブ回答内容を示す

表７．SRS－B【支え】の SEINS 判定別記述回答の内容

問：一番の支えになるものは

アイデンティティ拡散傾向（P：N=2：4）	モラトリアム（P：N=34：8）	アイデンティティ確立傾向（P：N=31：0）
P　大切な人	P　友達	P　恋人
P　彼氏、家族	P　家族や友人の存在や自分への期待	P　友達（看護学生）
N　特になし	P　家族	P　友達や家族
N　家族	P（無回答）	P　友達、家族
N（無回答）	P　家族とか	P　知識や理解の深まりを実感すること
N　お金	P　周りにいる人（家族・友人など…）	P　家族
	P　努力	P　○○○さん
	P　家族	P　友達からの応援等の言葉
	P　友達	P　人づきあい
	P　友人の存在	P　１０班の皆
	P　家族・周りの方々	P　グループメンバー
	P　友人、家族、大切な人	P　もうすぐ休みになること
	P　家族	P　リラックスする時間
	P　趣味	P　両親
	P　家族	P　友だち
	P　家族	P　友達
	P　母	P　家族
	P　睡眠や食事など安定した食事	P　理解者
	P　家族	P　家族・友人
	P（無回答）	P　家族・恋人・友人
	P　家族	P　必要としてくれる人たち
	P　家族、友人など自分の周囲にいる人。	P　人
	P　睡眠	P　友人
	P　家族・友達・彼氏の存在	P　時間があること
	P　楽しいと思うことがあること	P　家族
	P　家族	P　周囲の人
	P（無回答）	P　友人
	P　友人	P　家族
	P　友人	P　将来に対する希望を持っていること
	P（無回答）	P　ありのままの自分を理解してくれている友達の存在
	P　家族、友達、周りにいる人達	P　仲間
	P　親、兄姉	
	P　友達	
	P　友達との会話、遊び	
	N　周囲の人、自分の決意	
	N　１人の時間	
	N　周囲の人々	
	N　ご飯	
	N（無回答）	
	N　実習が終わること	
	N　わからない	
	N　最後まで頑張ろうと思う気持ち	

注１：SRS－B【支え】は SRS－A 下位尺度【深心】に対応している
注２：P はポジティブ回答内容，N は非ポジティブ回答内容を示す

表８．SRS－B【対他評価】の SEINS 判定別記述回答の内容

問：周囲に対して強く感じていることは

アイデンティティ拡散傾向（P：N=0：6）	モラトリアム（P：N=14：28）	アイデンティティ確立傾向（P：N=19：12）
N （無回答）	P 皆心の優しい人	P 協力
N あまりない	P 憧れ、尊敬	P 明るく楽しい
N 周りの人は自分より優秀	P みんな頑張っている	P 感謝
N どうすればあの子のように考えられるようになるのだろう？	P 追いつきたい！	P でかい声であいさつしよー。
N 劣等感	P 感謝	P 感謝
N 早く実習おわりたい	P 一緒に実習がんばっていきたい。	P 努力している
	P 感謝	P 一緒に実習がんばろう！
	P 尊敬	P 一緒に実習のりこえよう！
	P 感謝	P 班の皆と実習を頑張りたい
	P 私はもっと頑張らないといけない	P みんな勉強を頑張っている
	P 皆がんばっているな	P 一緒に実習を乗り越えたい
	P （無回答）	P いつも助けられている
	P 信頼	P 幸せ
	P 感謝の気持ち。	P 支え、理解してくれている
	N 自分を過大に評価しないでほしい	P 感謝
	N 自分の意見をしっかりもっており、それを相手に伝えることができ、自分もそうなれるように努力せねばならない	P 楽しい
	N （無回答）	P 一緒に頑張りたい
	N 視線が気になる	P 感謝
	N 特になにも。	P いつも、ありがとう
	N 周りの友達から、勉強面で遅れている気がする。	N 過度な期待をしないで
	N 特にない	N 自分よりもすぐれている、まじめである
	N 特にないです	N 本当にいい人もいれば悪い人もいる
	N みんな実習に対して真剣	N みんな楽しそう
	N 私は賢くない！	N 明確な目標がある人がうらやましい。
	N すごい	N 頑張ろう
	N どのように思われているか	N 悩みくらいある
	N よく勉強しているなあ	N 皆　将来像が明確でうらやましい
	N 今、特に強く感じることはない	N ない
	N 特にない	N 特にない
	N 自分とは違う	N たまには静かにしてほしい
	N （無回答）	N 自分が思ってもいない印象をもっていたりする
	N 特になし	
	N 特に何も感じていない	
	N （無回答）	
	N 実習で迷惑をかけるかもしれないけどよろしくお願いします。	
	N （無回答）	
	N （無回答）	
	N （無回答）	
	N なんだか楽しそう	
	N 自分がどう思われているのか	
	N ほっといてほしい	
	N もう少し考えて話してほしい。	

注１：SRS－B【対他評価】は SRS－A 下位尺度【意味感】に対応している
注２：P はポジティブ回答内容，N は非ポジティブ回答内容を示す

表９．SRS－B【対自評価】の SEINS 判定別記述回答の内容

問：自分のこれからは

アイデンティティ拡散傾向（P：N=0：6）	モラトリアム（P：N=12：30）	アイデンティティ確立傾向（P：N=19：12）
N （無回答）	P より良いものにしたい	P 進む道は決まっている
N まだわからない、が周囲に流されたくない	P 自分が思う道に進んでいきたい	P どうにでもなる
N まったく先がみえない	P 楽しみ	P 自分自信で何とかする
N 仕方なくはたらくけど、達成感はありそう	P 勉強をたくさんしていきたい。	P やりたいこといっぱいやろうと思う
N 不明	P 一生懸命	P 頑張っていく
N まだよくわからない	P 現実と向きあう	P もっとがんばらないと
	P 実習を頑張ってのりきる	P 実習を乗り越えて、就職したい病院に就職する
	P 一人前の人間になる	P 看護師
	P 良き Ns になりたい	P いそがしくなるので頑張りたい
	P 今まで通り「何とかなる」と思っている	P もっと勉強をしなくてはならない
	P （無回答）	P ステキなナースになる
	P 看護師となってだんだん成長していく	P 明るい
	N 自分が決めていく	P 楽しくなっていくと思う
	N （無回答）	P 頑張ろう
	N どーなるんかなぁ	P 有意義なものになる
	N わからない	P 頑張って立派なナースになる
	N やれることを頑張るしかない	P 自分に自信をもって生きる
	N 未知	P 努力を続ければ，大丈夫
	N どうなっていくか不安である。	P 自分で努力して切り開く
	N どうなるのか不安	N 未知
	N 分からない	N なんとかなる
	N 就職試験の勉強ができるだろうか	N 心配
	N どうなるか不安	N 就活しないといけない
	N 未知	N 実習をのりこえる
	N 未知	N 時間に追われた生活になる
	N （無回答）	N どうなっていくのだろう
	N 実習	N 大変だろうけど、大切
	N 分からない	N 大変になりそうだ
	N 社会人になれるか不安。	N 未知
	N どうなるのだろうか	N 努力次第
	N 自分で悔いのない様選びとっていかなければならない	N どうなるか分からない
	N わからない	
	N （無回答）	
	N どうなるか分からない	
	N 辛いことや困難がたくさんあるだろう	
	N 実習を乗りこえられるか、不安・・・。	
	N つらいです	
	N （無回答）	
	N 就職。忙しい	
	N 時間が解決する	
	N どうなるのか	
	N 分からない	

注１：SRS－B【対自評価】は SRS－A 下位尺度【自覚】に対応している
注２：P はポジティブ回答内容，N は非ポジティブ回答内容を示す

表 10. SRS－B【病観】の SEINS 判定別記述回答の内容

問：病い（病気または疾病）というものは

アイデンティティ拡散傾向（P：N=0：6）	モラトリアム（P：N=7：35）	アイデンティティ確立傾向（P：N=8：23）
N （無回答）+B6：D35	P 付き合っていくもの	P 乗りこえるもの
N （無回答）	P 立ち向かっていくもの。	P 個性
N ほぼ遠い存在	P 心	P 人生の１部
N 予防することが出来たら１番良い	P 治癒の過程	P かからないよう予防する
N 仕方ない	P 気のもちようである。	P 誰がいつなるかわからないもの
N 自分はまだ病気にはならない	P その人らしさ。受け入れて，疾病と付き合いながら生きていけたらいいと思う。	P 予防できる
	P 辛いけど、闘って治していくもの	P 人生において乗り越えなければならない１つの壁である
	N 必ずみんなある	P ネガティブな要素ばかりではないと思う。
	N なったその人が悪いわけではない	N 障害
	N （無回答）	N 人を弱くさせたり強くさせたりする試練
	N （無回答）	N 気持ちが大きく影響する
	N あまりイメージがわかないもの	N 良くないイベント
	N つらい	N いつ起こりうるものか分からない。誰でもなる
	N なるべく避けたい	N 人を良くも悪くもするもの
	N 心の病	N 自分ではなくなる
	N とてもこわい、恐ろしい	N 良くない(不健康)
	N どうしようもない運命	N 弱っているとき。周囲の力が必要。
	N いつ発症するか分からない	N 人間を変えるもの
	N 恐怖	N 身心ともに影響がある
	N 人生を変える	N 人を強くも弱くもするもの
	N 辛いこと	N つらい
	N いつおどずれるか分からない	N 人生の見方（生き方）を変える
	N 怖い	N 精神、心とつながっている
	N 人の人生に障害を与える	N 体力が弱っているときに発症する
	N 仕方のないもの	N 誰にでも起こること
	N 皆が辛い	N かかりたくない。
	N （無回答）	N つらいものだ
	N 怖い	N 命をおびやかすもの
	N その人にとっては、苦しいもの。	N 気分によって変わっていくところもある
	N 苦しい	N なりたくてなったんじゃない
	N 身体的だけでなく精神的なものも含む	N 逃れられない。突然起きるもの
	N 害するものでもあるけれど、長くつき合えばそれは身体の１部となる	
	N 怖い	
	N （無回答）	
	N 良きもあり悪くもある	
	N （無回答）	
	N つらいです	
	N （無回答）	
	N （無回答）	
	N なってしまったもの	
	N 気から	
	N 治るもの	

注１：SRS－B【病観】は SRS－A 下位尺度【価値観】に対応している
注２：P はポジティブ回答内容，N は非ポジティブ回答内容を示す

となり，私的スピリチュアリティが看護学生としてのアイデンティティに及ぼす影響を適正に評価できたものと考える．ただし，SRS-B についてはCronbach の α 係数が 0.52 であり，基準値とされる 0.6 に満たなかった．これには SRS-B の項目数の少なさも関係していると考えられるが，P:N 比において回答の傾向を示すことが可能であったことから分析に使用することとした．

２．看護学生アイデンティティ因果モデルの検討

１）看護学生アイデンティティ因果モデルにおける私的スピリチュアリティ（SRS-A）の構成

共分散構造分析の結果，看護学生アイデンティティ（SEINS）に影響を及ぼす私的スピリチュアリティ（SRS-A）は,【意欲】【深心】【意味感】【自覚】【価値観】の全ての下位尺度によって構成されることが示され，その中でも【意欲】：望み成し遂げようとするこころ，【意味感】：意味づけを実感するこころとの間でパス係数 0.70 を越える強い関係が認められた．すなわち本研究の対象者である看護学生は，私的スピリチュアリティにおいて，望みを達成したいという思いと，周囲との関係において自分が有意味でありたいという思いを重視していると考えられる．

２）私的スピリチュアリティ（SRS-B）から（SRS-A）への影響

SRS-B は SRS-A を質的に補完する尺度であるが，15 項目の質問で私的スピリチュアリティを評価する SRS-A に対し，SRS-B は記述回答であるため，私的スピリチュアリティを幅広く捉えることが可能である．よって，本研究における因果モデルにおいては，SRS-A と共通概念を有しながらも，より大きな枠で私的スピリチュアリティを捉える SRS-B が SRS-A に影響を及ぼすという結果でモデルに示されたと考える．

３）私的スピリチュアリティ（SRS-A，SRS-B）から看護学生アイデンティティ（SEINS）への影響

「SRS-A」から「SEINS」へのパス係数が 0.89 であること，「SRS-B」から「SEINS」への間接効果が 0.63 であることから，私的スピリチュアリティは看護学生アイデンティティに強い影響力を持つことが示された．すなわち，私的スピリチュアリティを高めることで，看護学生アイデンティティが確立に向かうことを示している．また本モデルにおける「看護学生アイデンティティ」の分散の説明率は 0.79 であり，これは私的スピリチュアリティで看護学生アイデンティティの 79％を説明できることを示す結果である．この強い影響力と説明率については，まず，私的スピリチュアリティの一側面である「自分自身に向かう自己内発的な意識」は，看護師を目指す自分に対する意識と関連するためと考えられ，また私的スピリチュアリティのもう一つの側面である「自分以外との非物質的な結びつきへの志向」が，看護という社会貢献度の高い職業に対する寄与志向と強く関連するためと推測される．

次に，私的スピリチュアリティ（SRS-A）の構成要素の中で強い関連性が認められた【意欲】（パス係数 0.71），【意味感】（パス係数 0.84）と看護学生アイデンティティの関連について考察する．【意欲：望みを成し遂げようとするこころ】との関連については，望みや目標を成し遂げようという意欲が，看護への積極的な寄与を望む気持ちや，看護において自分にとって有意味な目標を達成したいという意識に反映されるためと考える．また【意味感：意味づけを実感するこころ】との関連については，周囲との関係における自己存在の有意味さを感じようとする意識が，看護者である自分の有益さを捉えようとする意識に反映されるためと考える．

３．SRS−B 記述内容の検討

「SRS-B」から「SEINS」への直接効果は認められなかったが，「SRS-A」を介して「SEINS」に 0.63 の間接効果が認められたことから，「SRS-B」によって示される私的スピリチュアリティもまた，看護学生アイデンティティに影響を与えることが示唆された．そこで，「SRS-B」の回答内容から，私的スピリチュアリティと看護学生アイデンティティの関連を検討する．

SEINS では合計得点に基づいて，看護学生としてのアイデンティティを 3 つのカテゴリーに分類できる．そこで，SRS-B の 5 つの下位尺度における回答内容を SEINS 判定の 3 カテゴリー別に比較し，各カテゴリーにおける私的スピリチュ

アリティの特徴を考察する．

まず，SRS-Aの下位概念である【意欲】には，SRS-B【望み：何よりも一番したいことは】が対応している．記述内容をみると，各群においてほぼ何らかの望みがあるが，確立群では，「旅行」「遊びたい」「友人との食事」などレジャーに関する内容が一番多く，次いで「睡眠」など休息に関する内容が多い．モラトリアム群でも「旅行がしたい」「遊びたい」などレジャーに関する内容が多く見られるが，「睡眠」「休みたい」などの休息を求める内容が増え，確立群では見られなかった無回答もみられる．拡散群では「睡眠」「自分が本当にやりたいことを見つけたい」「自分で生活していけるようになりたい」など，休息を求める内容や現状に不満足な内容が多い．各群での回答内容を比較すると，看護学生アイデンティティが確立傾向にある学生は，活動性の高い望みを持ち，拡散傾向になるに伴い，非活動的となり，身体的・精神的休息を望む傾向にある．このことから，活動意欲と看護学生アイデンティティの関連が示唆された．

次にSRS-A【深心】に対応するSRS-B【支え：一番の支えになるものは】の記述内容では，確立群，モラトリアム群，拡散群すべてにおいて「友達・友人」「家族」などその人にとって意味のある人物を挙げる内容が多かった．特に確立群では80.6％（25名／31名中）が人物を挙げている．人物以外では，確立群では「将来に対する希望」や「知識や理解の深まりを実感すること」などの肯定的な回答がみられる．モラトリアム群では，64.3％（27名／42名中）が人物を挙げているが，それ以外では「食事」「睡眠」など生活の安定を支えとして挙げた学生もみられた．拡散群の回答では，人物の他には「お金」や「特になし」などあるが，総括して考えると，自分にとって意味のある人物を支えとしている者ほどアイデンティティが確立傾向にあり，明確な支えがなくなるにつれ拡散に向かうと推測され，支えとなる存在の有無および支えの対象が看護学生アイデンティティと関連が示唆された．

SRS-A【意味感】に対応するSRS-B【対他評価：周囲に対して強く感じていることは】への回答では，確立群では「感謝」「一緒に頑張りたい」「楽しい」といった肯定的感情を抱いている者が多い．また「一緒に」という言葉が頻回に使われていることから周囲との連帯感を重視していることが推測された．モラトリアム群では「尊敬」や「みんな頑張っている」といった記述内容がみられ，自分と比べ周囲を高く評価していること，また「自分を過大評価しないでほしい」や「どのように思われているか」などの回答から，他者からの自分の評価への意識が窺えた．また「とくになし」や無回答も目立つ．拡散群では，「劣等感」や「周りの人は自分より優秀」などの回答から劣等感を感じていることが示された．周囲との関係を肯定的に捉え，連帯感を感じている者ほど看護学生としてのアイデンティティが高いことから，周囲に対する肯定的感情と看護学生アイデンティティの関連が示唆された．

SRS-A【自覚】に対応するSRS-B【対自評価：自分のこれからは】では，確立群では「なんとかなる」「ステキなナースになる」「有意義なものになる」など将来展望が明るく，将来への期待感が感じられる回答が目立つ．また「頑張って立派なナースになる」や「自分で努力して切り開く」など，努力により将来が良いものになると捉えている者が多い．モラトリアム群では，「わからない」「未知」といった先行き不透明感を感じている者，また「どうなるか不安」「社会人になれるか不安」などの不安感を示す者が多い．拡散群においては「まったく先が見えない」「不明」など将来への見通しがつかない者がほとんどであった．これらの回答内容から，自分の将来に希望を抱き，それに対する努力投入をしている学生ほど，看護学生アイデンティティが確立傾向にあり，将来への不安・不明瞭感など，将来に対する否定的感情がある者は拡散傾向となることが推察された．これより，看護学生アイデンティティと将来展望の明確さとの関連が考えられた．

最後にSRS-A【価値観】に対応するSRS-B【病観：病い（病気または疾病）というもの】だが，全体的に「良くない」「辛い」「怖い」など悲観的な回答が多い中，確立群は「乗りこえるもの」，「人を弱くさせたり強くさせたりする試練」，「ネガ

ティブな要素ばかりではないと思う」,「人生において乗り越えなければならない１つの壁である」など病気を前向きに捉え，また「人生の一部」や「人生の見方（生き方）を変える」など，中立的に疾患を捉える傾向にあることが示された．モラトリアム群では「付き合っていくもの」や「その人らしさ．受け入れて，疾病と付き合いながら生きていけたらいいと思う」など受容的意見もみられるが,「恐怖」「怖い」「辛い」などの悲観的感情が目立つ．また無回答も 21.5％(9 名／ 42 名中）と多い．拡散群では,「ほぼ遠い存在」や「自分はまだ病気にはならない」といった病気を非現実的に捉える傾向にあった．これらの回答から，看護学生アイデンティティが確立傾向にある学生は前向きに病気を捉え，人生への病気の影響を客観的に判断するが，拡散傾向になるに従い，病気を悲観的あるいは非現実的に捉えることが推測される．ここから，病気の捉え方と看護学生アイデンティティとの関連が示された．

SRS-B 尺度全体における回答内容を SEINS 判定の 3 カテゴリー別に比べると，確立群の回答内容は肯定的な記述内容が多く，モラトリアム群では肯定的な回答に加え，無回答や否定的回答が増え，拡散群では否定的な回答が多い．SEINS 判定の 3 カテゴリー別に算出した P：N 比からも，確立群は回答に対する自己評価がよりポジティブであり，モラトリアム群，拡散群の順で自己評価が非ポジティブ傾向となることが示されている．

４．看護学生アイデンティティ確立に向けた方策の検討

SRS－B 記述内容の特徴から，看護学生としてのアイデンティティ確立に向けた方策を検討する．なかでも「SRS-A」の構成概念の中で強い関係が認められた【意味感】(パス係数 0.84) や【意欲】（パス係数 0.71)，および【価値観】（パス係数 0.67)，【自覚】（パス係数 0.62）は，看護学生アイデンティティとの関連が強いと考えられる．

【意味感】に関しては，看護学生アイデンティティが確立傾向にある者は，周囲に対し連帯感や肯定的な感情を持っており，拡散傾向に従い周囲に劣等感を感じていることが示された. 合田らは，看護学生の自尊感情と職業的アイデンティティの関連についての調査より,「自尊感情が低い学生は，看護職としてのはっきりした目的や方向性を見出しにくい状況である」と述べ,「看護学生が他者と自己，看護と自己との比較を通して自分の価値を感じられるように配慮すること」が重要だとしている[14]．このことからも, 看護学生が意味・価値のある存在であることを感じられるような支援，そして周囲に肯定的な感情を抱けるような支援の提供が看護学生アイデンティティの確立に繋がると考える．

次に,【意欲】について，活動意欲の高い者は看護学生アイデンティティが確立傾向にあり，身体的・精神的休息を求める者ほど看護学生アイデンティティが拡散傾向にあることが示された．先行研究では，アイデンティティが拡散傾向にある者ほど，神経症様症状が示されやすい[15] とした結果もあり，看護学生の活動意欲の程度は看護学生アイデンティティの状態を知る手がかりとなると同時に，休息を求める看護学生においては，その理由を把握し，共感的に理解する支援の提供を行う必要がある．

【価値観】については，病気を悲観的・非現実的だと捉える者において看護学生アイデンティティが拡散傾向にあった．これに関しては，臨地実習を通して多くの患者や疾患とのつき合い方を学ぶことから，病気を多角的に捉え，客観視できるような態度の習得を支援することが看護学生アイデンティティ確立に向けて有効であると考えられる．

【自覚】に関して，将来展望が明確で努力投入している者ほど看護学生アイデンティティが高く，将来への不安が強い者は拡散傾向にあることが示された．これより，入学時より定期的・継続的な将来に関する話し合いの機会を持ち，将来展望を明らかにしていくことが，看護学生アイデンティティ確立に向けて有効な支援であると考える．

また比嘉は，私的スピリチュアリティへの介入法のひとつに，援助的コミュニケーションを用いた関わりを提案している[16] [17]．援助的コミュニケーションとは，相手の内面的成長を促す関わりであり，私的スピリチュアリティに対する援助的

コミュニケーションとは「普段あまり意識しないような話題を投げかけ内省を促すことで相手の言語や行動を変化させる」という方法である．具体的には，連想法により1つの言葉からイメージすることを徐々に深めていき，自分の内面の深い部分に意識を向け，自己のスピリチュアルな部分に気付かせることにより言動変容を促すもので，事柄の「意味」に心を向けさせることで私的なスピリチュアリティを高めさせることができる．看護学生を対象に，このようなスピリチュアルに働きかける援助的コミュニケーションを用いた関わりを持つこともまた，看護学生アイデンティティ確立に向けての有効な支援のひとつであろう．

以上より，これらの支援を活用し，看護学生の私的スピリチュアリティを高めることで，看護学生アイデンティティを確立へと方向付けることができるのではないかと考える．また，青年期にある看護学生が自己を内観し，自己に対する気付きを得ることは，自分の存在意義への確信すなわち，青年期の発達課題であるアイデンティティそのものの確立を促進するものと考える．

（本研究の限界と課題）

因果モデルにおいては，私的スピリチュアリティが看護学生アイデンティティの影響要因であることが示されたが，分析対象者が79名と少ないことからこの結果の一般化は難しいと考えられ，また対象者の少なさがモデル適合度にも影響を及ぼしていると考えられる．対象者の数としては，「質問する項目数の5－10倍以上を目指す」[18]とする文献もあり，本研究では，160以上の有効回答があれば安定した結果が得られたと予想される．しかし今回は十分な対象者を集めることができなかった．そのため今後は対象数を増やして，看護学生アイデンティティと私的スピリチュアリティの関連を実証していく必要がある．

また，看護学生アイデンティティ判定方法に関して，今回の研究においてアイデンティティ拡散傾向と判定されたのは6名であり，「アイデンティティ拡散傾向」の特徴を抽出するには数が少ないと考える．拡散群が少数である理由としては，もとより看護志向を持つ看護学生を対象としているため，全体的に看護師を目指す自己意識が高い，すなわち看護学生アイデンティティが確立傾向にあるためと考えるが，今後は看護学生アイデンティティ尺度の構成内容および判定方法を含めて，SEINS判定による3カテゴリー（アイデンティティ拡散傾向，モラトリアム，アイデンティティ確立傾向）の特徴を捉え直す必要がある．

最後に，看護学生の私的スピリチュアリティの特徴から看護学生アイデンティティ確立に向けた方策を提案したが，今後はそれらの方策の有効性を実証していく必要がある．そして，私的スピリチュアリティ以外の概念との関連を検討し，更なる看護学生アイデンティティ確立に向けた方策を模索していくことが今後の課題として挙げられる．

結 語

私的スピリチュアリティが看護学生としてのアイデンティティに及ぼす影響を検討し，私的スピリチュアルな側面から看護学生アイデンティティ確立に向けた方策に関する示唆を得るため，共分散構造分析を行い，その因果関係を検討した．その結果，看護学生アイデンティティ因果モデルから，看護学生の私的スピリチュアリティが高まることで，看護学生としてのアイデンティティが確立傾向に向かうことが示された．次に，私的スピリチュアリティ（SRS-B）の回答内容から，看護学生アイデンティティ確立に向けた方策を検討した．「看護学生が意味・価値のある存在だと感じてもらえる支援」，「周囲に対して肯定的な感情を抱ける支援」，「休息を求める看護学生においては，その理由を把握し，共感的に理解する支援」，「病気の多面的な意味を見いだせる支援」，そして「定期的・継続的な将来に関する話し合いの機会を持ち，将来展望を明らかにしていく支援」の提供を行うことが看護学生アイデンティティ確立に向けた有効な方策案として考えられた．また援助的コミュニケーションを用いた関わりにより，看護学生の私的スピリチュアリティを高めることも看護学生アイデンティティ確立に向けて有効な支援であることが示唆された．

謝 辞

本研究のためにご協力いただきました皆様に心から感謝いたします．また本論文は修士論文の一部に加筆修正したものである．

文 献

1）Erikson，E．H：Identity and The Life Cycle. International Universities Press，New York，1959.

2）エリクソン，エリク．H：幼児期と社会Ⅰ．仁科弥生訳，みすず書房，東京，1994.

3）無藤清子：「自我同一性地位面談」の検討と大学生の自我同一性．教育心理学研究 31：292-302，1979.

4）Munly，P．H：Erik Erikson's Theory of Psychosocial Development and Career Development．Journal of Vocational Behavior 10：261-269，1977.

5）加藤厚：大学生における同一性の諸相とその構造．教育心理学研究 31(4)：20-30，1983.

6）エリクソン，エリク．H：自我同一性 - アイデンティティとライフサイクル．小此木啓吾訳編，pp112，誠信書房，東京，1987.

7）比嘉勇人：看護における Spiritual-Care Model．富山大医学会誌，21(1)，2010.

8）World Health Organization：<http：//apps.who.int/gb/archive/pdf_files/EB101/ pdfangl/eb1017.pdf>（10/29/2016）

9）小藪智子，黒田裕子ほか：看護学生の職業的アイデンティティ形成に関する研究（第二報）－経年的変化から考える教育的支援－．川崎医療短期大学紀要，27：25-29，2007.

10）浜多美奈子，比嘉勇人，田中いずみほか：看護学生アイデンティテイ尺度（SEINS）の開発およびその信頼性と妥当性の検討．富山大学看護学会誌，14(1)：49-58，2014.

11）比嘉勇人：Spirituality 評定尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討．日本看護科学学会誌，22(3)：29-38，2002.

12）比嘉勇人：文章完成法による spirituality 評定尺度の開発．人間看護学研究，3：63-69，2006.

13）小塩真司：研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析．pp267，東京図書株式会社，東京，2006.

14）合田友美，黒田裕子ほか：看護学生の自尊感情と職業的アイデンティティとの関連から考える教育的支援．川崎医療短期大学紀要，31：75-81，2011.

15）中谷陽輔ほか：現代青年においてアイデンティティ（自我同一性）の危機は顕在化するのか．パーソナリティ研究，20(2)：63-72，2011.

16）比嘉勇人：心理的・神気的次元における援助的コミュニケーションスキルの向上にむけて．第 7 回高度専門看護教育講座研修会資料，2012.

17）比嘉勇人：看護師の援助的コミュニケーション－実践編－．第 10 回高度専門看護教育講座研修会資料，2013.

18）小笠原知枝，松木光子：これからの看護研究－基礎と応用－（第２版），ヌーヴェルヒロカワ，2010.

Relationship between identity as a nursing student and personal spirituality, and strategies for establishing identity as a nursing student

Minako HAMADA[1)], Hayato HIGA[2)], Izumi TANAKA[2)], Keiko YAMADA[2)]

1) Medical Corporation HOSPY Urata Clinic
2) Department of Psychiatric Nursing, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama

Abstract

A causal model of nursing student identity and personal spirituality was developed and strategies for establishing identity as a nursing student were investigated. A covariance structure model was obtained using Scale of Ego-Identity for Nursing Student (SEINS) and, Spirituality Rating Scale-AB (SRS-A, SRS-B) in 79 nursing students. The content of responses on SRS-B was also analyzed in accordance with the SEINS criteria.
The results of the covariance structure analysis showed a path coefficient from SRS-B to SRS-A of 0.71 and a path coefficient from SRS-A to SEINS of 0.89. The goodness of fit of the specified model was generally good. The analysis of the response content to SRS-B (ratio of positive response content P to non-positive response content N) was found to be P : N = 0.15 in the group that tended toward identify diffusion, P : N = 0.79 in the moratorium group, and P : N = 1.82 in the group that tended toward identity establishment.
A nursing student identity causal model was created that shows things affecting identity as a nursing student and personal spirituality, and suggestions were obtained for strategies for establishment of a nursing identity from the aspect of personal spirituality.

Key Words

Nursing student, Identity, Spirituality